

ヒアリング調査結果とりまとめ

1. 実施概要

遊佐町内の生産者、町内事業者、庄内地方事業者で、新道の駅の関係者となりうる主体としてヒアリング対象を整理し、以下のスケジュールで実施した。

■ヒアリング実施概要

日時		組織名称	ヒアリング回答者
11月4日(木)	11:00～12:00	遊佐町役場	時田町長、池田副町長
	13:00～14:00	JA庄内みどり農業協同組合	遊佐支店長、営農課、大谷吉彦委員
	14:00～15:00	遊佐鳥海観光協会	高橋事務局長
	15:00～16:00	遊佐町商工会 有限会社とがしスポーツ	阿部副会長 佐藤社長
11月5日(金)	13:30～15:00	遊佐町総合交流促進施設株式会社 ひまわりの会会長 元気な浜店店長	森常務、佐々木駅長 高橋会長 店長
	15:00～16:00	グリーンストア株式会社	谷地専務
	16:00～17:00	山形県漁業協同組合	伊原理事
11月16日(火)	10:30～11:20	庄内観光コンベンション協会	庄内総合支所地域産業経済課 佐久間室長
	15:00～16:00	酒田青年会議所	久木原理事長
	16:00～17:00	遊佐町優良特産品推進部会	平会長
11月17日(水)	10:00～12:00	鳥海山・飛鳥ジオパーク推進協議会	山本事務局長、大野博士、菅原事務局員

2. 実施結果（まとめ ※匿名性加工済）

構想・コンセプト

Q1：R8年度の日沿道開通により、どのような効果や影響が期待されますか。

- ・ただ車が通るだけのために機能する道路とならないように、地域と密着し、地域の発展に寄与し、他地域との交流や緊急医療体制など、**多面的な役割を担うことが新しい道の駅に求められる**こと。遊佐町がさらに発展するためのスーパー道の駅として認知を広めている。
- ・日沿道については無料化になるということで、だれでも立ち寄れるというのがポイントだと思う。一方で国道7号の将来的な交通量がなくなってしまう（吹浦地域の住民の方々の通勤がメインになってしまう）のではという懸念がある。
- ・国道7号の混雑が解消されると思う。気軽にドライブなど、**近隣観光を楽しむ方々が増える**のではないかと期待している。
- ・日沿道IC沿いという立地が、**ちょうど良い休憩場所として立ち寄る人も多いと期待**する。目的地として来訪する人も含めて、今とは比べ物にならないくらいに、遊佐町にとって良い効果があると思っている。
- ・通り抜けによる空洞化が危惧される。高速が無料区間となれば、国道7号の交通量は確実に減少する。**道路利用者に最も必要とされるのはトイレ**だと思う。日沿道区間内でも**トイレは限られている**ため、高速からの立ち寄りはずがあると思う。
- ・利便性が向上することで夏場は海産物や海水浴目当てのお客さんが増えると思う。防災の面においてはプラスの影響が大きいと思う。
- ・旅行のスタイルも観光バスから、自家用車での移動が多くなり、**ファミリー旅行が増える**と予想される。日沿道の開通により、**移動時間短くなる。動きやすい、行ってみたい気持ちにつながる**と思う。一方で、団体旅行は減っており、コロナが収束しても以前のようにはないと思っている。観光施策においても、個人旅行、マイカー旅行にシフトしている。**広い目で見ると、東北6県からの旅先になり、いま以上に交流人口が増える**のではないかと。情報発信等の視点で道の駅は重要な役割である。新規にハード施設できるということで、魅力あるもの作っていただきたい。
- ・青年会議所では33年前に日沿道シンポジウム始めたという経緯がある。当初の思いは、道路をつなげようという積極的な運動ではなく、見捨てられたエリアと捉え、インフラでなければヒューマンネットワークを強化しようということで動いてきた。現代において、道路が繋がることでどのような価値を見出せるのか考え直さなくてはならない。日沿道開通に対しては、マイナスから0に近づくような最低限の話であると認識している。緊急救命や災害対策の面ではメリットがあると思っている。まちづくりの面では、**今開通することによって一気にプラスになる、さらにプラスの領域にある要素をさらにプラスに伸ばせるチャンス**でもあると思う。それが何かということを整理していきたい。
- ・子育て世代、若者の発想を反映したい。道の駅は遊佐町の生き残りをかけた最後の仕掛けだと捉えている。遊佐町らしさは、「このままだとなってしまう町」ということだと思う。現状は、危機感が足りないと思っている。まちづくりの在り方、ライフスタイルの拠点、生き残りの拠点としての検討が必要。
- ・鳥海遊佐インターは、上りも下りも重要な位置になると思う。通過してしまうところをあえて停まってもらうことが重要だと思う。

構想・コンセプト Q2: “道の駅でPRすべき” “遊佐町らしさ” とはなんですか。
(キラコンテンツのヒントとなるキーワードなどを教えてください)

- 一番は鳥海山の景色だと思う。深田久弥の一節「山容蒼麗な鳥海山が間近に迫り、訪れた人誰もがハッと息を飲むほど美しく、迫力が感じられる場所」、この最高のランドマークをどのように発信するかがポイントである。また、鳥海山が圧倒的なメインだが、水田があり、里山があり、その奥に鳥海山があるという構成が県内では唯一であり、写真家からも人気である。
- 自然、食のおいしさ、ジオパーク、史跡等が考えられる。「日本海側の野菜は味が濃いね」といわれることも多いため、素材そのものを売り出す必要性を感じる。出荷量からみると、米、メロン、スイカ、パプリカ、長芋、ゴボウ、かぼちゃ等が挙げられる。果物系は弱いところもあるが、様々な種類の野菜が取れる環境である。遊佐米の取引もあるが、単価が高いため、地元の人には食べないという印象。
- 鳥海山のロケーション。
- 鳥海山、海、水、湯水等が挙げられる。町内には遊べる場所がたくさんあるため、そこをいかにリンクさせるかが重要だと思う。自然をフィールドにした遊びのきっかけやコンテンツの提供が考えられる。
- 鳥海山の景観（天候が危惧されるため、100%キラコンテンツとなるか不安が残る。）、逆さ鳥海（田んぼに映る鳥海山）、田園風景（田んぼの四季によって変わる風景（水の反射、グリーン、黄金色））
- ジャパンエコトラックの一拠点となり得るアウトドアフィールド
- 海産物関係（県内では海のものとは山のことを扱っている道の駅は鶴岡と2つしかない）、鳥海アワビ
- 水産物でいえば、マグロ、夏はのどぐろ・アマダイ、9月～おぼこ鱈、12月～トラフグ等
- 水がキーワードではないか。名水100選等に選ばれる等名所が多い。水はタダという時代ではなくなっている。利き水等十分キラコンテンツになると思う。湧き水エリアについては地元の人から知る人ぞ知るという場所で行くのが大変かもしれない。また、一般の方が行くと支障があるかもしれないが、魅力的な鳥海山の恵みだと思う。
- お米はおいしい。海産物も安くてコスパが良いと思う。遊佐米の認知度については、知る人ぞ知ると感じるが、遊佐のお米はおいしいよね、というのは一般的に言われていることのため、遊佐米もPRしていくといいと思う。
- 養殖のサクラマス、アワビの活用もオープンと併せてメイン商品になると良いと思う。

構想・コンセプト Q3：【全体】新道の駅へのご意見・ご要望を教えてください。

- ・国道7号は、日本海側の長距離移動する通過客が多いことが地域の特性。そのため、**エネルギーステーションの整備は必須**と考えている。民間による整備でも良く、また、道の駅事業区域内でなく、隣接する場所でも良いため、必ず整備したい。
- ・**エコツーリズムの拠点**となることも想定され、電気自動車や自転車で町内を廻る出発点としたい。
- ・**来訪者の滞在時間を長くしてもらおう仕掛けが必要**であると思う。ゲートウェイという位置づけで日本海側地域全体の発信基地になるよう、周辺道の駅との相互交流を図る等、地元の産直だけのよう小さな規模で考えず、大きな視点で捉えたい。そのために、民間の活力を導入することも検討する。
- ・**一つの街のように複数の棟があり、産直と観光物産をゾーン分けされ、また、年配の方やキャリアケースを持って移動できるよう、通路幅を広く計画したい。**
- ・道の駅建物については、いくら立派なものを造っても、必ずものは古くなるため、後々変更できるよう、**拡張性をもった形で整備**することとしたい。外観については、新庁舎のようにシンプルで、EV等は付けず、メンテナンスの負担が少ない施設としたい。**鳥海山の眺望**については、様々な発想で眺望を妨げる障害物への対策を考えられると思う。
- ・半屋外でくつろげる場所が充実していると良い。
- ・現状の運営者と一緒に全体をプロデュースしていくことが駅長には求められると思う。建設後の20年程度先を見越したビジョンを持つべきで、40代、50代が中心となって動いていける雰囲気にならないといけないと思う。
- ・周辺地域へのプラスの影響は大きいと思うが、町の中に人がいなくなる等マイナスの影響も可能性としてあると思う。参考にしたい事例として、長野県白馬村の「スノーピーク」は、冬場だけでなく夏場も力を入れて盛り上げている施設であり、日本のアウトドアフィールドの拠点となりつつあると思う。ブランドの魅力を発揮できる、山の借景等を利用した自然と建築との融合が印象的だった。庄内の自然はゆったりしているのが特徴的なため、ゆっくり自然を楽しむ雰囲気がスノーピークのコンセプトとよく合うと思う。また、スノーピークはまちづくりとフィールドを掛け合わせるのが得意な部分もある。**ヨーロッパでは登山の際、情報収集（雪の情報、装備（なければ貸出）、山小屋の予約等）のため、「ふもと町」で1日過ごしてから出発するというのが一般的であり、遊佐町もそのような「ふもと町」というスタイルを確立することが出来るポテンシャルがあると思う。**ワーケーションが注目されるなか、登山前後の何日間か滞在し、山の情報収集をしつつコワーキングスペースで仕事をするスタイルも可能だと思う。
- ・道の駅象潟に東北最大級のモンベルが出店する件については、同じようなものを新道の駅（PAT）に取り入れても、地域のお客さんの取合いではなく、どちらも衰退する方向に向かう可能性のほうが大きいと思う。環鳥海の枠組みで見れば、新道の駅（PAT）には毛色の違うものを取り入れれば、全体としていい組合せ、掛け合わせを作れると思う。
- ・新道の駅について、**単独で考えるのではなく、高瀬、吹浦地区の施設、資産を全体プロデュースするという視点で考えたい。**機能分散も含め、同じようなシステムで使えるものは残し、一体感のある施設になるといいなと思う。
- ・道の駅を整備する一番の目的は地域おこしであると思う。特に農業や漁業。PAT構想と謳っているのであれば**一極集中ではなく町全体を活性化するもの**としたい。
- ・新道の駅は地域のゲートウェイとなるように、地域の魅力を大きく発信したい。そのためには時間帯や付加価値の提供がポイントになると思う。遊佐町だけの道の駅でなく、環鳥海エリア、ジオパークという一つの売りを使って拠点を整備するのが望ましい。
- ・**遊佐の観光＝農業**だと思っている。後継者不足等が深刻な問題となっているが、町として農業を維持しなければ、田園風景も守られないと思う。
- ・吹浦漁港では種類（ワタリガニ、ハタハタ、鮭等）は取れるが、数が少なくブランドになるものがない。また、夏場に人気の岩ガキも数が少なくなっている。水揚げされた魚を漁師から直

接卸すことはできない。吹浦漁港でも岩ノリ、あおさ等、冬でも取れるものもある。

- ・ **ライブの店内放送**（ラジオスタジオのようなものも考えられる）で野菜の仕入れ（〇〇さんが来たよ〜）情報や、天気（虹が出てるよ〜、鳥海山の雲が退いたよ〜）状況や、パンの焼き立て情報などをお知らせすることもできると思う。
- ・ 丸池様、日本海、ウイスキーの蒸留所等も含めて観光コースを作りたいという思いもある。
- ・ 遊佐で魚を食べる文化がなくなってしまったと感じる。食生活も文化も変わったが、そのうえでビジネスをどのように成立させるか、考えなければならぬ。新道の駅（PAT）では、高くても食べたいものが必要だと思う。また、安い魚を加工できる人材を育てないといけないと感じる。若い人が家族を養えるようなビジネスを検討したい。
- ・ 酒田でおばこ鱈を捕っているのは自分だけである。こだわりを持った漁師さん達のこだわりとストーリーをアピールする売り方が理想的だと思う。
- ・ 経済効果をどのように出すかと考えたときに、地場の人たちだけでは無理があると思う。人を呼び込むためには、知恵を出し、特色を出さないと厳しいと思う。気象条件も厳しいところ。
- ・ どのようなビジネスでも利益をどう出すかが重要であると思う。安ければ数を稼ぐ、利益率の高いものであれば少なくともいいということになるため、高く売れるものをとったほうがいいと思う。
- ・ 洋上風力発電の推進などと絡めて、**自然とどのように共存できるかを考えたい**。
- ・ 適切な資源管理をしないと商品を買ってくれない時代が来ると思う。再生可能エネルギーを使って加工や冷蔵を行うことが、今後アピールになると思う。
- ・ 遊佐町は平地というのも利点があると思う。構想段階のいま、知恵を出すといいものができると思う。県外からの来訪者はもちろん地元民に愛される施設づくりを期待している。
- ・ 宮城県の「あ・ら・伊達な道の駅」は「ロイズ」の直営店がある。地元の特徴を生かしつつ、目玉となる施設誘致という可能性もあるのではないかと思う。
- ・ 早急にアンテナを立てて、反発も含めて議論を活発にしたいと考えている。技術、社会の変化に対応できないと決めている人に対しては、置いて行くという選択肢もあっていいと思う。それ以上に、強烈な施設である必要があると思う。青年会議所の中でもまだまとまっていないことが多い。
- ・ 今後のプラス領域にピンを置いて、そこからさらに、いかにプラスに変えていけるか、というのがポイントだと思う。**先端的な設備と仕組みを使った「コネクターハブ」**になってほしいと思う。
- ・ **整備する道の駅と共に生きていく世代の声をどれだけ反映できるか、が重要**である。世代間の闘争のようになりそうだと思う。ハンガリーの学生と遊佐町の中学生が日夜つながるような仕組みがあっても面白いと思う。地元の人も使える場所でないといけないと思う。子育て世代にスポットを当てたい。**若い人に魅力的な施設（ランクが上がったような感覚になるような）にしたい**。
- ・ **特産をPRすることよりも、SX、DXなど、最先端のもので、未来都市、ソサエティ 5.0、SDGs 等を具現化するような道の駅にするべきだ**と思う。高速ができることによるメリットのような捉え方では、伸びしろがないと思う。それ以外のところに極端でとびぬけたメリットを見出さないといけないと思う。
- ・ 就業教育に絡め、特区対応のようなイメージで、都内の学生が遊佐に来て就農体験をする等も考えられる。農業×〇〇（DX、IOT、投資等）が一つのコンテンツになると思う。
- ・ **ハブであることのアイデアとして、健康というコンテンツがある。ヘルスポイントを地域通貨として使うのは面白い**と思う。また、自然学習できる場が必要だと思う。あるものを使ってこれまでない体験ができるような施設にしたい。
- ・ ハードの部分で、巨匠のような人にデザインしてもらおうというのもありだと思う。最先端都市の一角のようにしたい。

- ・自分たちが当たり前になっている体験を、特別な体験として提供したい。逆に遊佐っぽくないほうがいいと思う。遊佐町らしさを打ち出すのは良いが、中にあるコンセプトは、野心的で、人を育てるようなものでなくてはならないと思う。
- ・町内を全て周遊させるというよりは、つながる部分を選択して、ポイントポイントで考えたい。地元の人には、現実逃避をさせてあげるような施設が望ましい。15歳以下の子達への投資ととらえたい。遊佐町の今後の舵をどうとるかを示す施設だと思う。
- ・新道の駅（PAT）は遊佐町最後の駅になると思う。地域で使えるお金を自分たちで稼ぐということが必要である。週に1日は町のために働くような人たちで運営していくことが望ましい。儲かる企業を連れてくれば良いというのではなく、遊佐のために動いてくれる人が重要。
- ・電脳「遊佐町」のゲートウェイというのがキーワードだと思う。電脳「遊佐町」とは、サイバー空間に登録をして、その中でショッピング等楽しめるようなイメージであり、遊びや暮らしをデジタルにしていけると思う。
- ・運営は現道の駅ふらっとをベースに考えたい。
- ・インボイス制度の導入で、遊佐町の産業が継続できなくなる恐れがある。個別に事業を行っているところを束ねるような人がいると理想的だと思う。加工業務に従事している人の平均年齢は50.60代が多い。世代交代と事業の継承、新しいシステムを同時並行に考えなければならない。商工会では一次産業について疎い部分もあることを踏まえて検討をしていく必要がある。
- ・予想を超える、意外性への期待に応える、道の駅としてほしい。
- ・環境の面で不安がある。降雨強度の基準は変わってきており、降水量は少ないが氾濫したということが過去あったため、強雨が降った場合を懸念している。
- ・鳥海山・飛鳥ジオパーク推進協議会では、ジオパークの中間拠点施設がPATに出来ることを期待している。秋田、山形の県境が結ばれるということで、確実にPAT周辺には人が集まるため、この場所に、情報提供できる場所があればいいなと思っている。遊佐はジオパークの中でも中心的なところだと思っており、全体にフォーカスするような施設を設置したい。
- ・ジオ関連で、特産品やツアー、情報提供機能との連携も可能だと思う。今までと違う形で地域情報の提供が出来ると考えている。また、PATを中心に、ガイドさんやツアーなど、観光との連携をすることも可能だと思う。教育旅行等、PATへのメリット、強みをまとめたい。

施設計画 Q1 :【全体】 現道の駅についての自慢・良いところ、課題だとお感じのところを教えてください。

- ・夏は大変混雑している。海水浴の利用者も多くいる。現状は通路が狭く、年配の方や、大きな荷物を持った方の利用においては不便を感じると思うところだと思う。
- ・地元の方や周辺住民の方の日常的な利用も多い。海のエリア、山のエリアの中心にあるという立地が、環境的に良い。
- ・食事の選択肢が多く、食べる楽しみがあるところ。施設が過大でないため、休日には狭いかもしれないが、それが逆に良い。生産者の写真があること。吹浦の中でも西浜集落の高齢者にとっては、地元のスーパー代わりとなっている。また、「道の駅が賑わっているのはいいが、ゆっくり雑談できる場があれば…」という意見や、「集落の高齢者の集会所のような場がなくなるのは悲しい」といった声もある。
- ・通路が狭いため、子供連れには優しくないと感じる。2倍程度の通路幅が欲しい。隣接する魚屋さん（ヤマサさんやマルジンさん）も一緒に盛り上がっていること。
- ・街全体として冬場の集客が課題である。
- ・魚屋さんについては、銀ガレイを囲炉裏風に目の前で焼いているところを見られること、パックでなく串でそのまま提供できること。
- ・駐車場から建物へのアクセスについて、どこからでも施設内に入ることができ、動線が単純明快で施設内が迷路でないこと。
- ・オープンスペースがないことが不便である。
- ・トイレについて、現道の駅では端にあるため、不便さを感じている。
- ・県内で入込客数1位というのは、アクセスがよいだけでないと思う。魅力を引き継いでほしい。季節ごとに、旬の農産物がいつもあって、夏はカキが食べられる。産直、水産品の生産者とのやり取り、掛け合いもいいところだと思う。雑多な印象もあったが、バラエティに富んでいるともいえる。お客さんが多い分、オリジナル商品など工夫をしてニーズにこたえていると思う。
- ・県外から来た人が持つ山形のイメージを品揃えに反映してもいいのではないかと思う。（さくらんぼ、そば等）山形県が4つのエリアに分かれているということを知っている人は少ないと思われる。北のゲートウェイとして仁賀保や内陸の青果もおいてもいいのではないか。
- ・周辺地域からの流通システムを構築できれば、山形県全体のPRができると思う。
- ・産直はいいと思う。基本的には満足度が高いと思う。ただし、値段の高いものの提供の仕方、空間の作り方については疑問を感じる。もっと演出が必要ではないか。
- ・基本的には狭い中でよくやっていると思う。販売手数料は、意地悪なところに比べたら安いと思う。課題としては、国道7号からの出入りが緊張するという事。
- ・加工品販売については、ふらっとの商品の減り具合や賞味期限を自分たちで確認して、生産量の調整をしている。（にくもち、孟宗汁）

施設計画 Q2：【全体】道の駅にあったらよいと思う機能はありますか。

- ・情報コーナーに人が常駐していれば、宅配サービス等の提供もできると思う。総合的なサービスを考えると、人が常駐して、+@のデジタル情報があると良いと思う。
- ・コワーキングスペース
- ・素晴らしいトイレでなくても良いため、清潔で使いやすいものとして整備したい。(女子トイレの行列解消、パウダールームの設置、多目的トイレの充実等)。
- ・遊佐町で子供が遊ぶところと言えば「こどもセンター」しかないという状況のため、情報発信と組み合わせて、子供やペット連れをターゲットにしたコンテンツはあり得ると思う。
- ・ペット連れはターゲットになりうる。現状は飲食スペースに動物は入れることができないため、苦肉の策として外に椅子をおいている。
- ・現状はイベントスペースがないため、ちょっとしたスペースがあるといいと思う。
- ・様々なタイプの車が来訪することがあるが、現状は大型車が侵入しづらく、前進進入・退出を基本とした計画としてほしい。
- ・キャンピングカーの扱いについては、オートキャンプ、グランピングの流行や、RVパークの検討も併せて考えたい。

施設計画 Q3：【産直について】道の駅の産直部分の品ぞろえを考えた際に、売り場としてどのくらいの広さが必要と思いますか。

- ・ひまわりの会も高齢化しており、生産者の人数によって売り場の面積が変わってくるのではと思う。
- ・産直面積は現状規模でちょうどいいのかなと思う。魚屋さんは奥にスタッフが多数いるため、規模としては狭いのではと感じる。
- ・後継者不足がある中で、水田を守るために1事業者あたりの管理面積が大きくなっており、それ以外の栽培に踏み込めないという現状がある。
- ・野菜を販売できる農家が減ってきている。そのため、生産者として直売所に出せる人がどれくらい増えるのかというところに課題があると思う。
- ・現状のままであれば施設規模は同等程度で良いと思う。現状の産直では、冬場にものが減ってしまう現状があり、その場合は農協に協力してもらい売り場を埋める等の対応や、リサイクル市を開いて穴埋めする等の対応をしている。ただしスーパーのようにしたいわけではない。
- ・店舗内のレイアウトについて、会員ごとの枠ではなく、平置きにしたほうが良いと思う。各生産者にファンができるのはいいことだが、商品を出せない会員との差ができてしまう。お客さん目線で考えると、商品が種類ごとに並んでいたほうが便利だと思う。
- ・バックヤードのスペースは広くしたいと考えている。
- ・鮮魚店については、販売スペースが、夏場と土日祝日はちょっと狭いかなと思う。冬場との差があり、客数が多い時は何人も並べないため、コロナもあって密だなと思うことがある。元々は物販だけであり、飲食提供が始まってから手狭になってきた。
- ・売り場全体に関して、全てオープンにして産直とお土産品の売り場が一体となっていることが多いが、遊佐の道の駅では、地元のリピーターのお客さんもいるため、小ざれいになりすぎて

敷居が高くなってしまわないようにしたい。

施設計画 Q4：【産直について】道の駅に商品を納入して頂くことは可能ですか。その際に課題はありますか。

- ・現道の駅産直から、ひまわりの会で生産していないものの注文が来た場合、農協で納品している。新道の駅についても現状と同じような関係性で問題ないと思うが、産直を今後どのように運営していくかがポイントとなると思う。
- ・農協とは違い、漁協では全てを販売しているため、人件費や手間をかけて直売をするメリットがない（売上げが費用に見合わない）と思う。山形県で一つの組合であるため、遊佐、鶴岡、酒田等、地域でのくくりはない。他県の船などで、山形の海で水揚げしてくれれば、山形県に販売手数料が入るという仕組みである。箱代小売り代がかかり、魚を売って利益を出すのは難しいことである。
- ・漁港は酒田が最も大きく、受け入れられるのが酒田しかないということもある。管轄が分かれており、吹浦であがった魚については、電話でやり取りを行い、入札取引となることも多い。一年中安定した輸出品しか売れない、その日とれたものを売るのは現実的でないと感じる。
- ・水産物については、加工品なら可能だと思う。特産品協会の中では二次加工ができる業者が限られている。
- ・遊佐での水揚げ量は少ない。岩ガキは道の駅の看板にしてしまうと、資源枯渇が懸念される。仮に一気に捕れるということがあっても、大きな冷凍庫の調達が必要になる。
- ・委託製造については、買い切りになるため、大きな事業になってしまう。

施設計画 Q5：【物販について】道の駅の物販部分の品ぞろえを考えた際に、売り場としてどのくらいの広さが必要と思いますか。

- ・お土産売り場は現状規模では狭いと思う。
- ・現状の物販スペースは元々情報コーナーであったため狭いと感じるが、物産館のように面積を広くしても、遊佐でしか買えないものが少ない（商品種類が少ない）ため、周辺地域のどこでも買えるような商品が増えるだけになってしまうかもしれないという懸念がある。売りとなる商品を作り、品数も増え、集客も見込むことができれば、規模を大きくすることも考えられると思う。県境ならではの秋田の商品を置くことも考えられる。
- ・遊佐町らしさが薄れてしまわないよう、規模としては大きくても今の2~3倍くらいかなと思う。

Q7：【飲食について】飲食サービスの提供方法と、必要な席数についてお考えはありますか。

- ・現状は、ファストフードの売上げがすごく良いと思う。遊佐米をどのようにPRするかが重要であり、土鍋で炊く、おにぎりにする、など、食べ方の工夫を試みるのも面白い。
- ・現状の席数では客数をこなさきれていないため、テラス増設で対応している。
- ・規模については、大きくしすぎる必要はないが、現状の20席程度から倍程度には必要だと思う。

ファストフード系と軽食で一つの空間にすると良いと思う。現道の駅は景色を見ながらのんびりではなく、長居してもらいたくないという狙いの回転重視で運営している。利益で考えると、ちょっと食べてすぐ帰るというファストフードが良いと思う。

施設計画 Q6:【産直・物販・飲食】道の駅にあったらよいと思う機能や仕組みはありますか。

- ・体験農園などのコンテンツも面白いと思う。産直は、農家にとって産直は重要な場所であり、グループ化してみんなで頑張っている。酒田の遊佐に近いところにもそういったグループがある。生産されている品種が多いほうが良いと思う。現状はありきたりなものが多いと感じる。物珍しい品種のものがあるとわくわくすると思う。旬の時期になると値段が手ごろになる等、そういった面でも価値を見出せると思う。
- ・飲食スペースについては、もっと特別な方法で提供しなければならないと思う。～飛鳥サンセバスチャン構想～というのがある。(年俸 2000 万程で星付きシェフを呼んでいる)。スーパーシェフを雇うことができれば、産直やふるさと納税にも影響があると思う。呼ぶ人は能力主義で、生かし切れていない食材等を PR してほしいと思う。
- ・産直でもサブスク契約など、お客さんを管理できる、デジタルで捕まえておく仕組みがあると思う。せっかく来てもらうのであれば、少々高いもののほうが売れると思う。インフルエンサーと実益を結び付けて考えたい。見せ方、ストーリー、体験に対価を払ってもらうのが理想だと思う。
- ・飲食店に必要なスペースについては、提供するものにより店内のゾーン分けが必要だと思う。空間の演出(中庭など)も取り入れるといいと思う。

施設計画 Q7:【観光コーナーについて】観光情報コーナーとして必要な機能・性能・規模についてお考えを教えてください。

- ・人員の配置はなくてもいいのではと考えている。新道の駅内に事務所を移転することも考えられるが、現状は駅の切符販売の事務(選任が一人、その他3人でカバー)を行っており、駅には最低でも2人の人員を配置する必要があるため、切符販売対応が大きな課題となる。情報提供のための壁をある程度確保したい。デジタルサイネージだけではなく、紙ベースでの情報提供も重要だと思う。
- ・過渡期を迎えている、デジタルと紙媒体のバランスが難しいところ。協会では今後、Instagramにてフォトコンテストをやろうと思っている。やはり、パンフレット等、紙ベースで手軽なものは必要なのではないかと思う。
- ・アクティビティの体験型観光が増えており、登山人口もこれからさらに増えると思われるため、鳥海山の登山情報はニーズが高いと思う。遭難が増えると、イメージの悪化でマイナス要因になる可能性もあるため、地域として情報提供サービスをしっかりしていると、安全の取り組みも最先端でPRになると思う。
- ・庄内一円の地図は、全体のイメージが付きやすいと思う。
- ・デジタルサイネージでは、YouTube キャンペーンのようなこともできると思う。ドローン映像や、個人の体験をまとめた一般の方の動画を流すようなことも、PRになると思う。
- ・パンフレットの写真だと小さくて伝わらないこともあると思う。観光地をピンポイントで知らない人が来ても、映像から食いついて興味を持つ人もいると思う。

施設計画 Q8：【観光コーナーについて】町内・広域周遊を実現するにあたっての取り組みのアイデアがあれば教えてください。

- ・環鳥海の枠組みは、県も入っている組織（事務局は秋田県）と、市町だけの組織（事務局は遊佐町）と2つある。窓口対応等は、どちらで受け持つかによって、人件費の問題等についての調整が必要となる。
- ・鳥海山登山については、それぞれの市町に登山口があり、リアルタイムの情報などは地元の方でないと答えられない部分もあると思う。環鳥海地域の中で現在個別に取り組んでいる活動についてもまとめられないかと感じており、そういった活動を引っ張ってくれる組織がないかなと思っている。
- ・道の駅を起点に、名水巡りバス周遊等が挙げられる。自家用車で行く場合、駐車場の確保等大変なこともあるが、バスであれば良いのではないかな。
- ・サイクルツーリズムの動線については、さくらの季節もいい景色がたくさんあると思う。
- ・スタンプラリーについては、効果があるかという微妙だが、周遊を考えるとありなのではないかなと思う。協会では今年度より、電子のスタンプラリーを実施予定。100か所程度の建物や自然を対象とし、アプリで訪れた場所のスタンプが自動で押されるシステム（GPSを活用）。遊佐は、立地や文化的にも、にかほ市とのつながりが深いと思う。将来的には連携して対象を広げられることを期待している。また、県境をまたいでのご案内もあり得ると思う。

施設計画 Q9：【全体】地元の方々にとって、必要と思われる施設は何だと思いますか。

- ・地元の事業者が不定期で出店できる小規模な催事スペースがあるといいと思う。（例：M 木工さん、地元の方の手作り品（ハンドメイド小物）など）
- ・地域の中で、販売の機会を得られていない人もいると思われるため、イベントスペースがあるといいと思う。年間を通してイベントの計画を立てて、施設を検討する必要がある。
- ・これからは、災害など何があるかわからない。ヘリコプターの離着陸等、有事の際には防災機能を発揮する広いスペースがあるといいと思う。
- ・テレワーク環境が必要だと思う。ワーケーションと絡めたコンテンツはあり得ると思う。テレワークで足りないものとして、運動不足や、ディスカッションの場などがある。

施設計画 Q10：【全体】観光客の方々にとって必要と思われる機能・施設は何ですか。

- ・背景に鳥海山が見えるような写真スポット。
- ・大型バスによる町内ツアー（登山や寺社巡り）の集合場所としての機能、高速バスの発着地としての機能、バスロータリーではなくても、デマンドタクシーの乗入等を考慮した乗降場所の整備が必要だと思う。
- ・町内の自転車周遊を促すため、レンタサイクルサービスは必須だと思う。
- ・もぎ取りの果樹園があつたりしても面白いと思う。
- ・キャンピングカー利用者が増えており、環境を整えば来る人も増えると思う。RV パークについては、温泉利用を想定し、現道の駅の跡地利活用ということも考えられる。
- ・EV 充電施設について、遊佐では利用頻度高いと思う。

施設計画 Q11：【with コロナ×ハード】コロナ禍における物販・飲食において、施設などハード面での課題があれば教えてください。

- ・ コロナで買い物を早く済ませて帰りたいという人も多くなっていると感じる。
- ・ 現状はコロナの影響で席数を減らしている状況であるため、広めの感覚とりつつ、閑散期にさみしくならないような空間としたい。
- ・ 自動釣銭機の導入についても検討が必要だと思う。

施設計画 Q12：その他

- ・ 新道の駅（PAT）の運営主体については、民間を入れて適切な競争となるようにしたい。現状の売り上げを踏まえ、可能であれば2割程度増やしたいと考えている。現運営者である遊佐町総合交流促進施設株式会社と道の駅は一体であるという考え方であり、新道の駅（PAT）についても、母体の一つは現運営者をそのままシフトさせる予定である。そのうえで、産直等については広域的な視点で検討し、テナントの定義からはみ出るものとなる可能性もある。
- ・ エネルギーステーションについても、どのような営業形態になるかどうかを見越した上で、有効な活用方法を検討したい。そのため、面積等については、現段階から事例等の調査を進めてほしい。
- ・ エコツーリズム、ジオパーク等、環鳥海地域の枠組みは大切にしていきたい。どこまでの働きかけができるのかについては今後の検討課題であるが、観光やゲートウェイ機能等、3市1町全体の様々な取組における拠点化を図り、協力体制を構築していきたい。
- ・ 日常的に多くの人を利用するわけではないため、今の施設規模の1.2倍くらいがちょうどいいのではと思う。新道の駅建物はだし風（東風）を考慮した配置・構造としてほしい。

【全体】新道の駅への参画や関わりの可能性や要望、課題について教えてください。

- ・道の駅の運営等に関する基本的な考え方が決まってから具体的に検討する。
- ・観光コンシェルジュについて、思い当たるのは、「ひまわり旅行」さん。旅行企画を実施しているので、地域の情報に詳しい民間事業者。
- ・建設にかかわる事業者について、基本的には町内事業者を使ってもらいたい。
- ・運営事業者については、商工会会員事業者を入れてもらいたいと要望書に記載する予定。
- ・銀ガレイの炉端焼きについては、鮮魚店の部員が高齢化しており、後継者不足等で人数も減っているため、事業として続けられるか不安が残る。今働いている方々からは、新しい道の駅について考える余裕がないという声もある。県漁協とも相談をしながら進めていけたらと思う。
- ・新道の駅の運営について一元管理にする方法もあると思うが、農産物及び鮮魚販売のノウハウがないため難しさを感じている。今までのような協力体制という形であれば可能だと思う。
- ・地元の鮮魚を扱うことについて、ヤマサ鮮魚店やマルジンであれば、仕入れ量も多く事業も手広く行っているため、仕入れ等の面で協力体制を構築することも可能性としてあるのではないかと思う。
- ・フルーツサンドの販売や、カフェの営業、食堂やお弁当屋さんでの出店を考えたい。加工所と販売所が隣接していて、広めの厨房があれば理想だが、店舗のみでも参入は可能だと考えている。
- ・新道の駅（PAT）では、誰がどのような経営をしていくか、気になっている。
- ・テナントで入りたいという人は多いと思う。新道の駅（PAT）でどのような機能・コンテンツを持たせるか、どんなものを売るのか、整理したい。鮮魚＋食べ物が重要なポイントになると思う。